

福島第一原子力発電所の状況

2015年9月11日

増田 尚宏

東京電力(株)常務執行役
福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント
兼 廃炉・汚染水対策最高責任者



東京電力

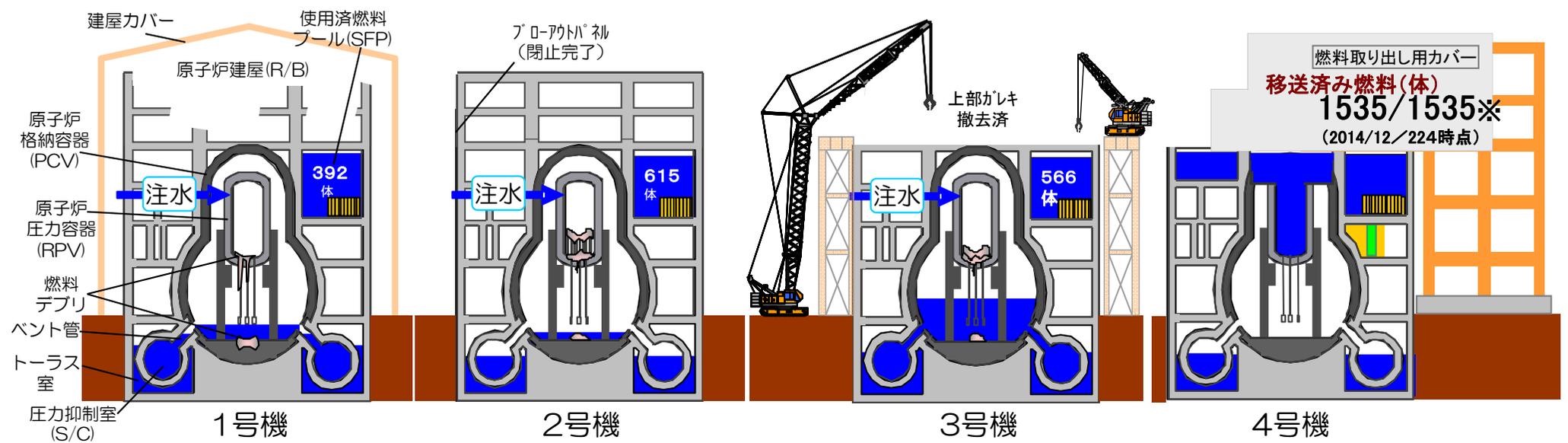
本日のポイント

1. 福島第一原子力発電所の現状
2. 汚染水対策
3. 設備の信頼性向上
4. 燃料取り出しに向けた状況
5. 燃料デブリ取り出しに向けた研究開発
6. 中長期ロードマップの改訂
7. 労働環境改善
8. 情報提供・コミュニケーション改善
9. 廃炉推進に向けた組織整備



1. 福島第一原子力発電所の現状(原子炉や建屋の状況)

■ 各号機ともに冷温停止状態を継続



圧力容器底部温度	
1号機	約29°C
2号機	約34°C
3号機	約33°C

格納容器内温度	
1号機	約29°C
2号機	約36°C
3号機	約33°C

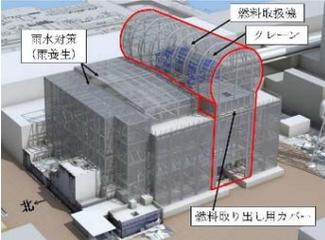
燃料プール温度	
1号機	28.0°C
2号機	27.6°C
3号機	23.3°C

原子炉注水量	
1号機	注水量: 4.3m ³ /h
2号機	注水量: 4.5m ³ /h
3号機	注水量: 4.3m ³ /h

2015年8月26日 11:00 現在

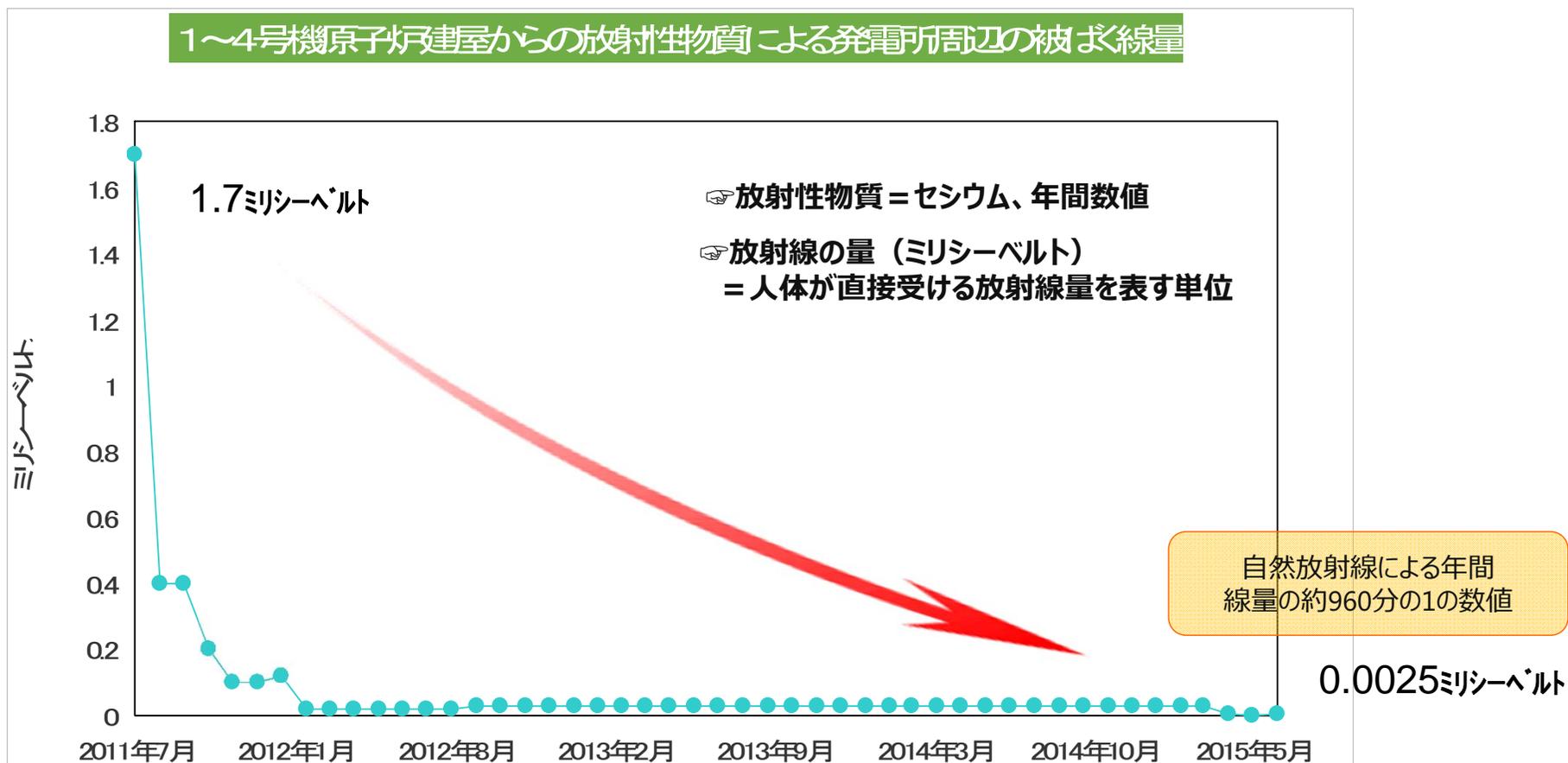
※4号機使用済燃料プール内の燃料は2014年12月22日に取り出し完了済み

1. 福島第一原子力発電所の現状(現状と課題)

1号機	現状 水素爆発した原子炉建屋にカバーを設置(2011年10月) 使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた建屋カバー撤去を実施中	課題 原子炉建屋上部及びプール内ガレキ状況の把握 建屋カバー撤去期間中の放射性物質の飛散防止	 2011年3月12日撮影	 2014年12月撮影	
2号機	現状 ブローアウトパネルを閉止し、放射性物質の飛散を抑制	課題 原子炉建屋内の線量低減対策	 2011年4月10日撮影	 2012年8月15日撮影	
3号機	現状 原子炉建屋上部のガレキ撤去が完了(2013年10月)	課題 線量が高いため、線量低減対策を遠隔操作重機で安全かつ着実に実施	 2012年2月12日撮影	 2013年10月11日撮影	 燃料取り出し用カバーイメージ
4号機	現状 使用済燃料プールからの燃料取り出し完了(2014年12月22日完了)	課題 建屋解体を含む本格的な廃炉作業の検討	 2011年9月22日撮影	 2012年7月5日撮影	 2013年11月12日:カバー工事完了

1. 福島第一原子力発電所の現状（気中放射性物質の状況）

- 1～3号機の圧力容器・格納容器から放出される放射性物質（セシウム）の量は、原子炉建屋頂部での大気風の放射性物質濃度（塵濃度）に基づいて算定される。
 - 合計放出量（2015年6月現在）の査定値は、約96万Bq/hrと算定された。
 - 事故収束に向けたロードマップのSTEP2完了時点（2011年12月）における評価値（約6千万Bq/h）と比較して約60分の1である。
- このため、敷地境界での被ばく線量は最大でも0.0025mSv/yrと査定される。
 （すでに放出されている放射性物質の影響を除く） 注記：法律により定められた被ばく限界は1mSv/yrである。

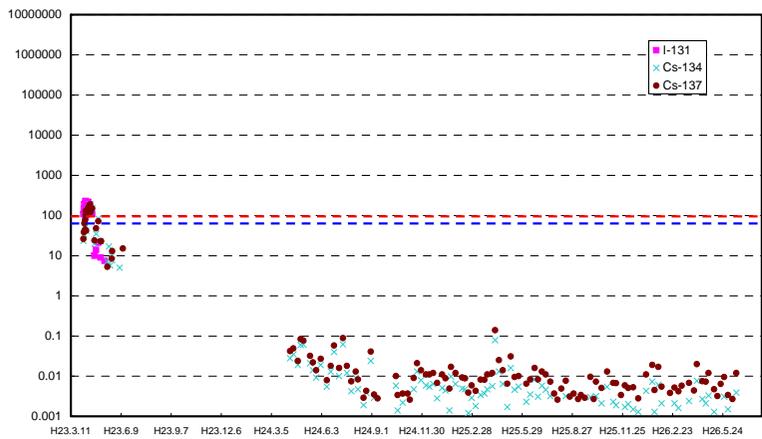


1. 福島第一原子力発電所の現状 (港湾内外における放射能濃度の変化)

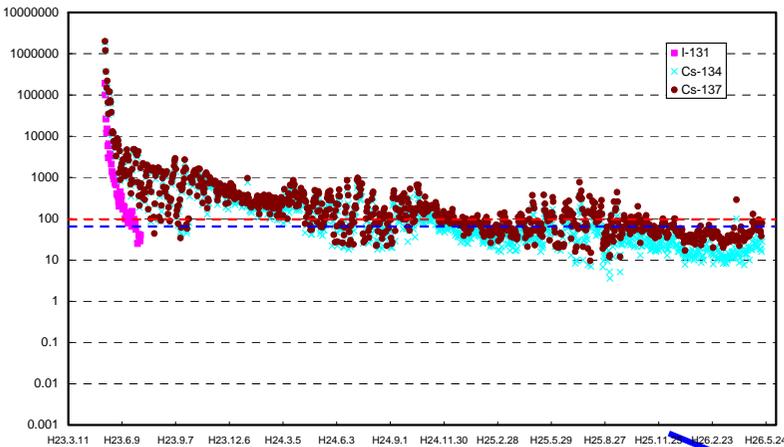
■ 事故後放射能濃度は徐々に低下、1～4号機の取水口付近では現在、10～100Bq/Lオーダーのセシウム137を観測しているが、港外では告示濃度を大幅に下回る。

4

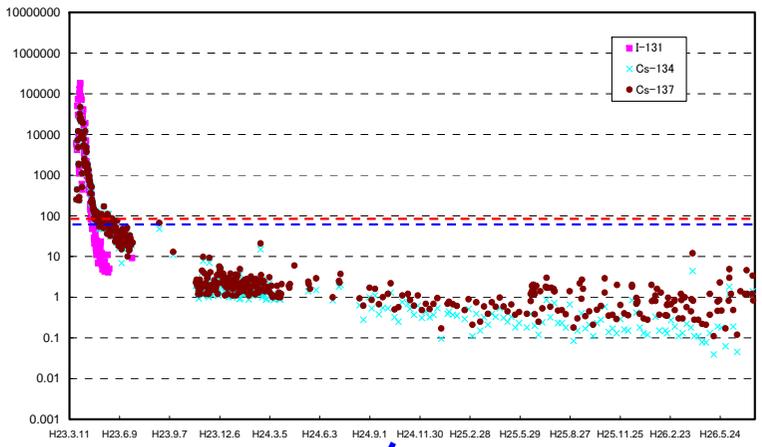
福島第一 敷地沖合15km(T-5) 上層 海水放射能濃度(Bq/L)



福島第一 3号機スクリーン海水(シルトフェンス内側)放射能濃度(Bq/L)

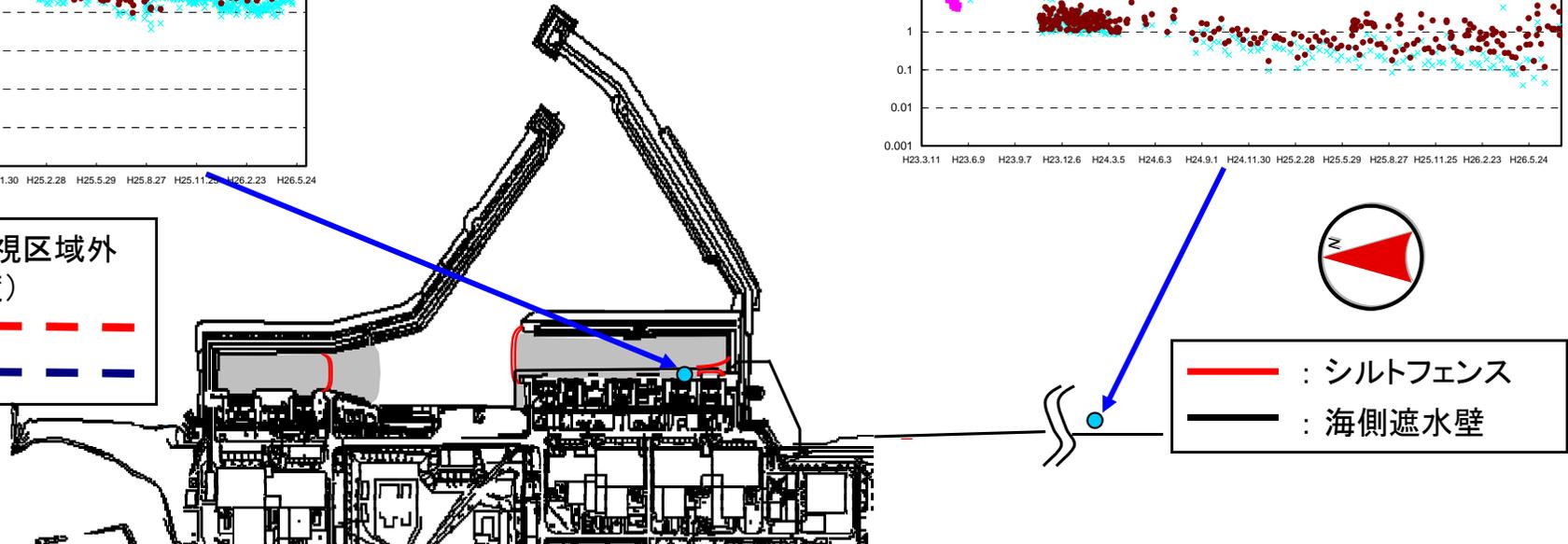


福島第一 南放水口付近 海水放射能濃度(Bq/L)



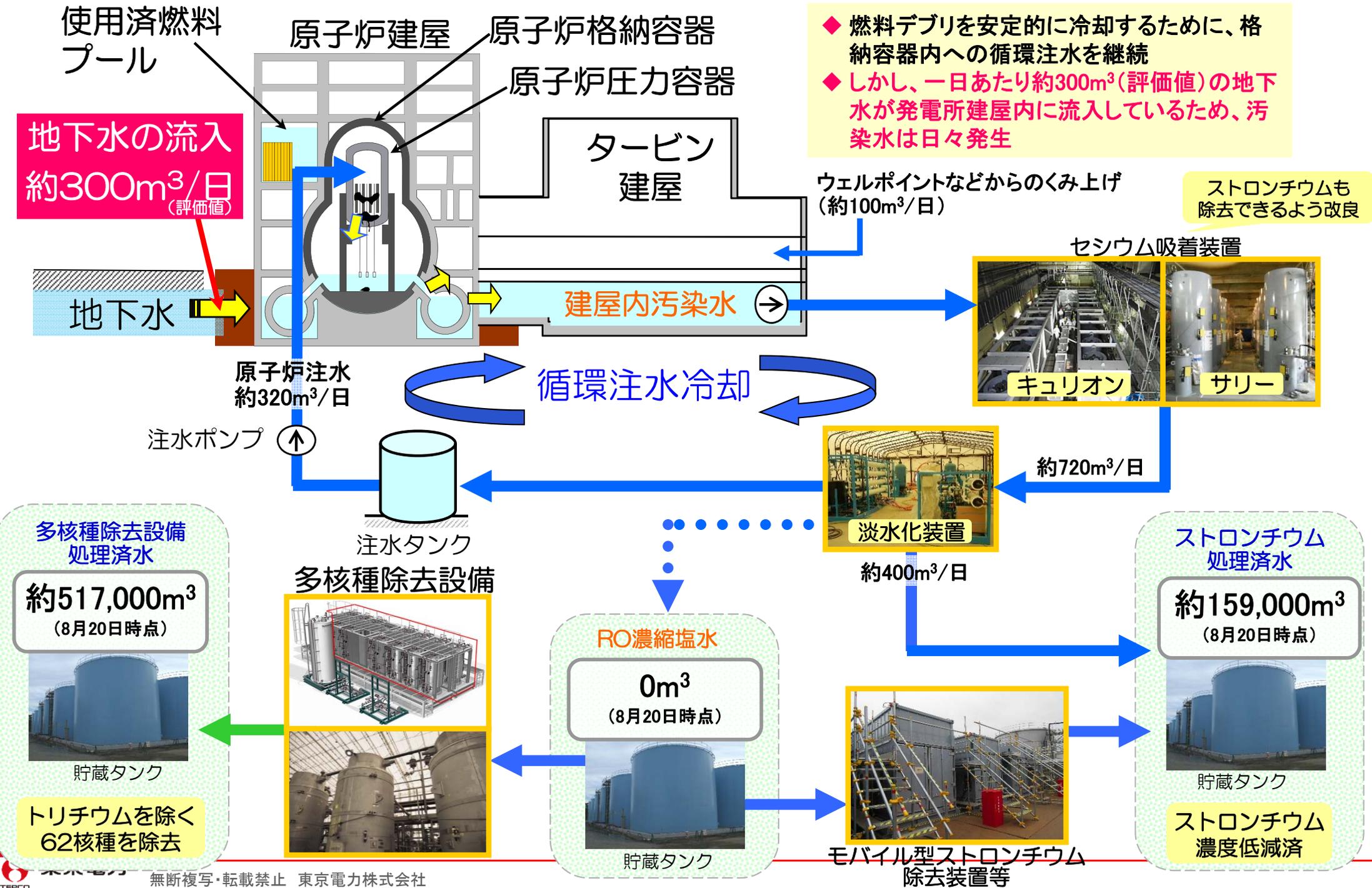
《参考》告示濃度(周辺監視区域外の水中の濃度限度)

- ・セシウム137: 90Bq/L
- ・セシウム134: 60Bq/L



— : シルトフェンス
 — : 海側遮水壁

2. 汚染水対策(冷却水の循環)



◆ 燃料デブリを安定的に冷却するために、格納容器内への循環注水を継続
 ◆ しかし、一日あたり約300m³(評価値)の地下水が発電所建屋内に流入しているため、汚染水は日々発生

ストロンチウムも除去できるよう改良

2. 汚染水対策(三つの基本方針と対策)

方針1. 汚染源を取り除く

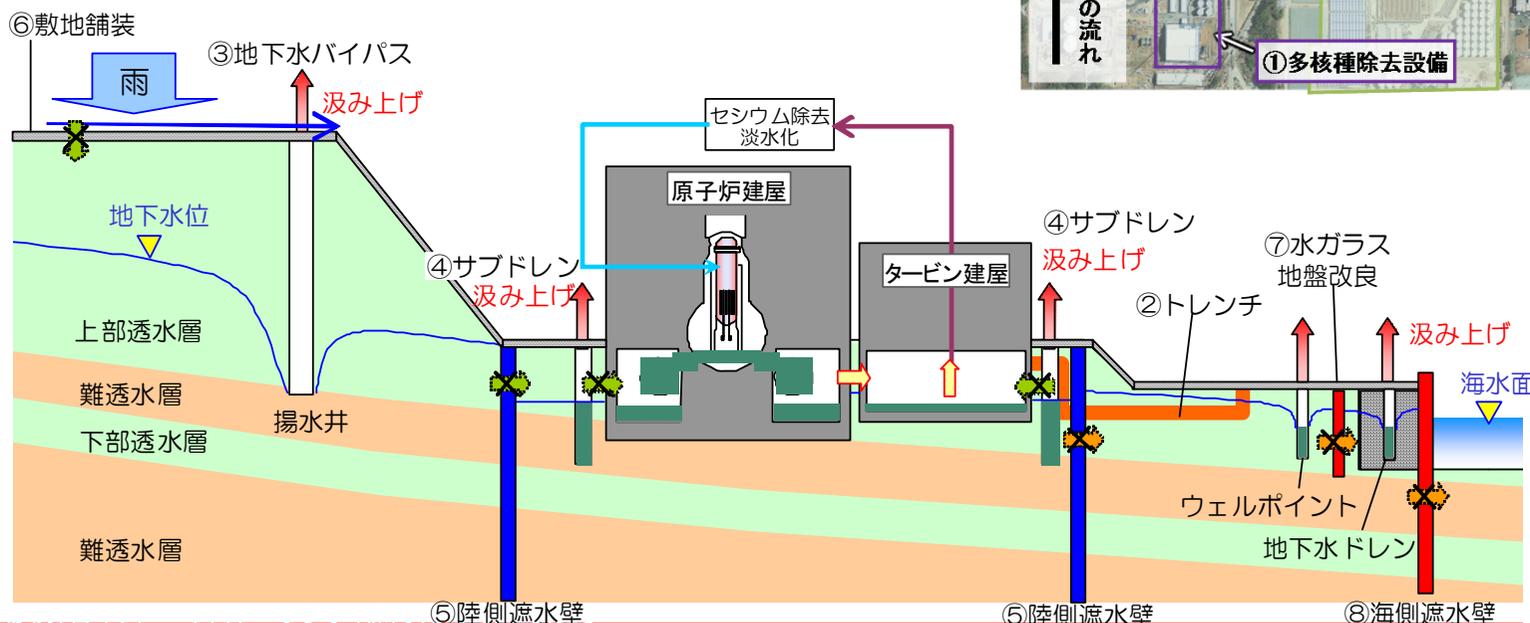
- ①多核種除去設備(ALPS)等による汚染水浄化
- ②トレンチ内の汚染水除去

方針2. 汚染源に水を近づけない

- ③地下水バイパスによる地下水汲み上げ
- ④建屋近傍の井戸での地下水汲み上げ(サブドレン、地下水ドレン)
- ⑤凍土方式の陸側遮水壁の設置
- ⑥雨水の土壌浸透を抑える敷地舗装(フェーシング)

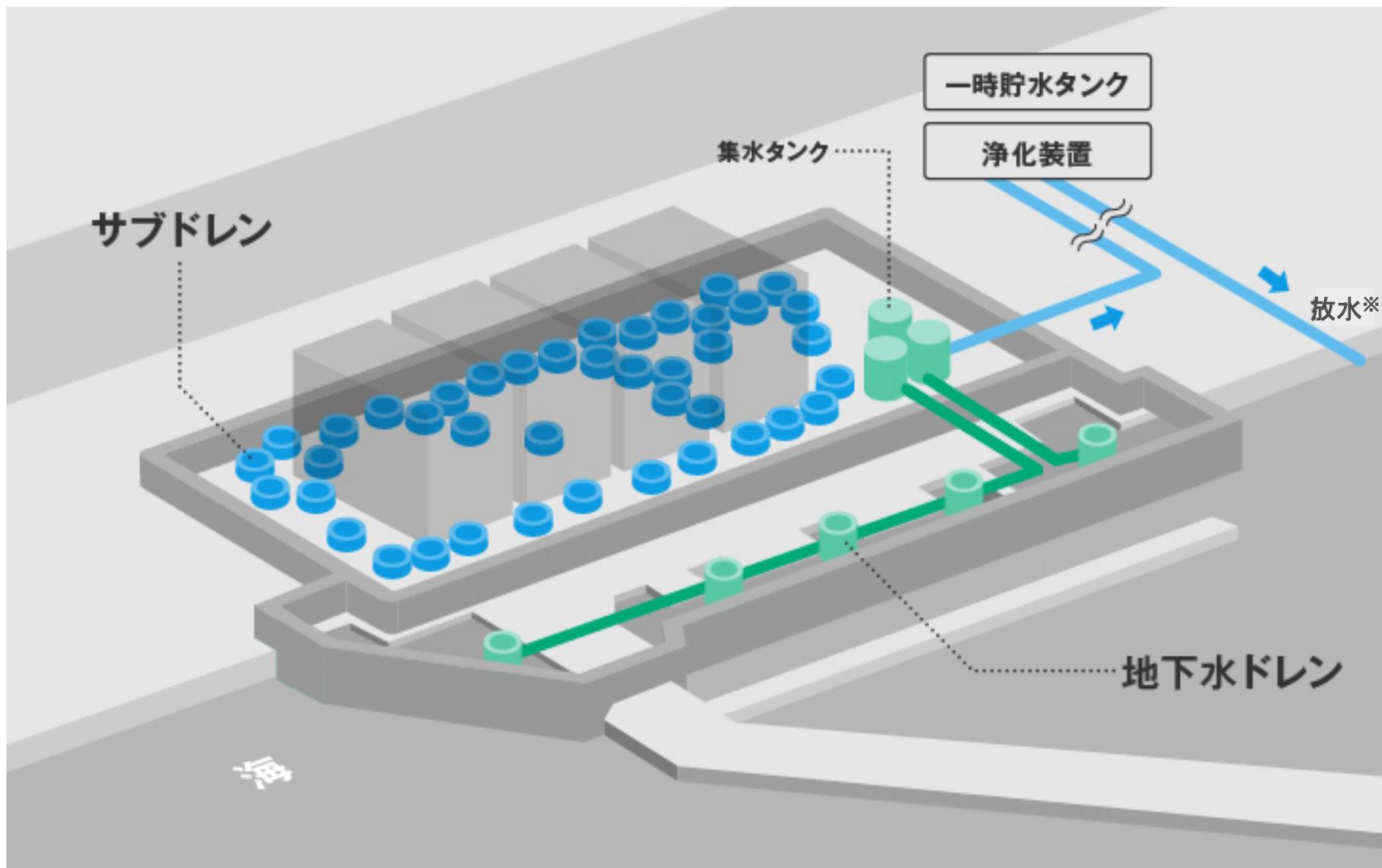
方針3. 汚染水を漏らさない

- ⑦水ガラスによる地盤改良
- ⑧海側遮水壁の設置
- ⑨タンクの増設(溶接型へのリプレイス等)



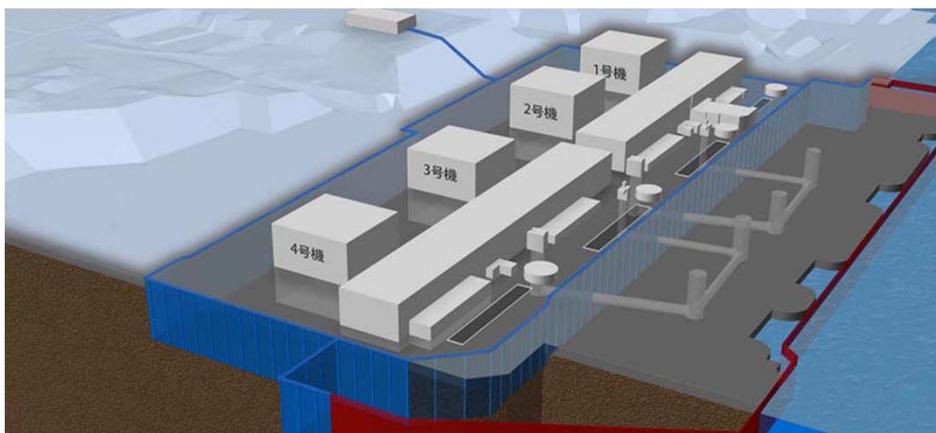
2. 汚染水対策 (④建屋近傍の井戸での地下水汲み上げ)

- 建屋近くに設置された井戸(サブドレン)を復旧させて、建屋周辺の地下水を汲み上げることにより、建屋内への地下水の流入を抑制する。9月3日から汲み上げを開始。

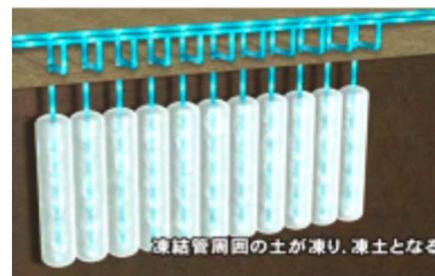


2. 汚染水対策 (⑤凍土方式の陸側遮水壁の設置)

- 1mピッチ(深さ30m)で垂直に凍土管を敷設し、その周辺を凍結させ凍土式の遮水壁を設置。周辺からの地下水の流入を抑えることが可能になる。
- 2014年3月14日にサイト内で試験的に凍結を行い、凍土管の周辺が凍結することを確認した。2015年4月30日より試験凍結を開始。



凍土壁(イメージ図)



凍土の構築



凍土のサンプル



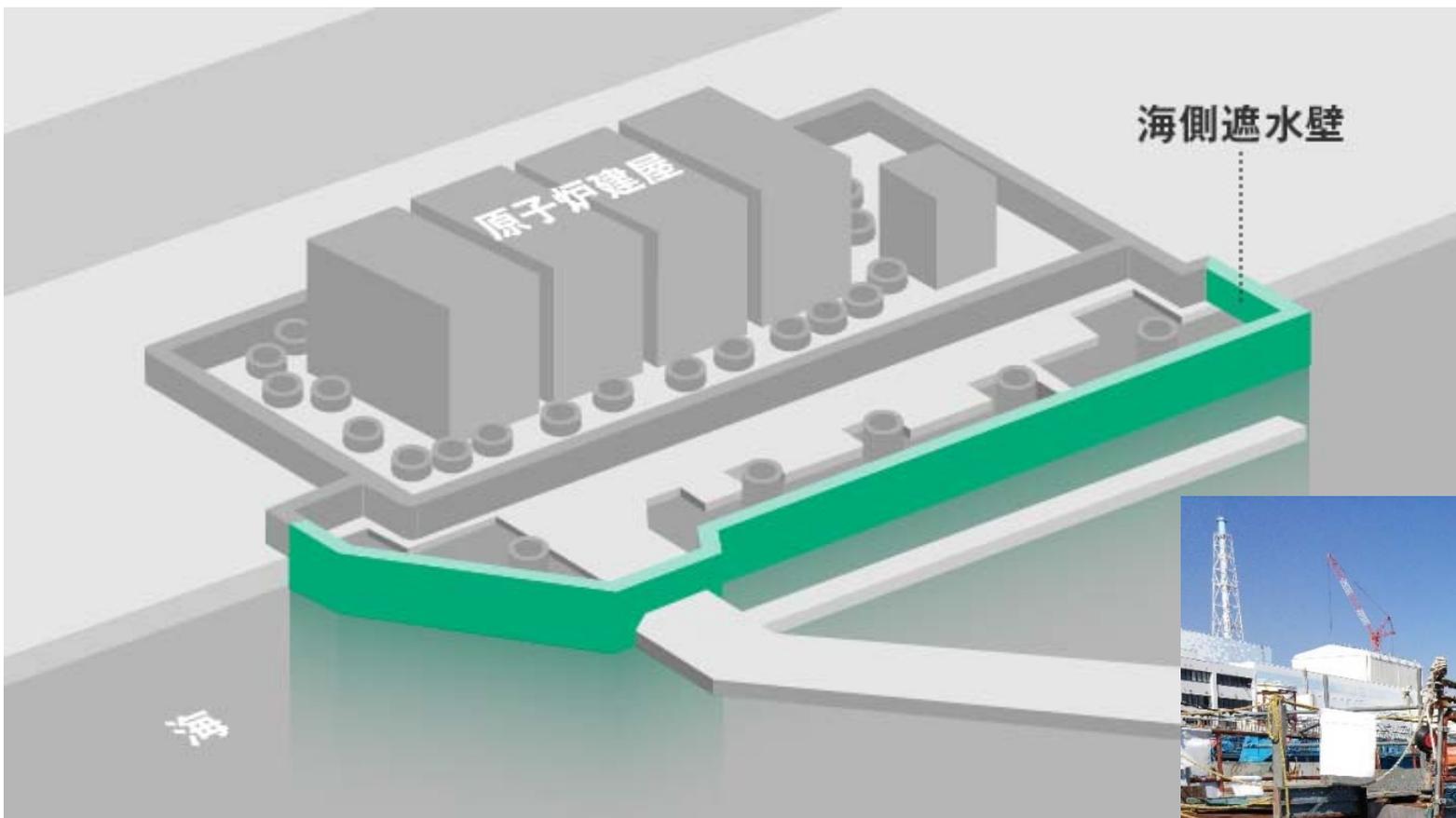
冷媒の移送管



凍結管(バルブ)の凍結状況

2. 汚染水対策 (⑧海側遮水壁の設置)

- 1～4号機海側に遮水壁を設置し、汚染された地下水の海洋流出を防ぐ(全長約780m)。
- 遮水壁を構成する鋼管矢板の打設は98%完了。

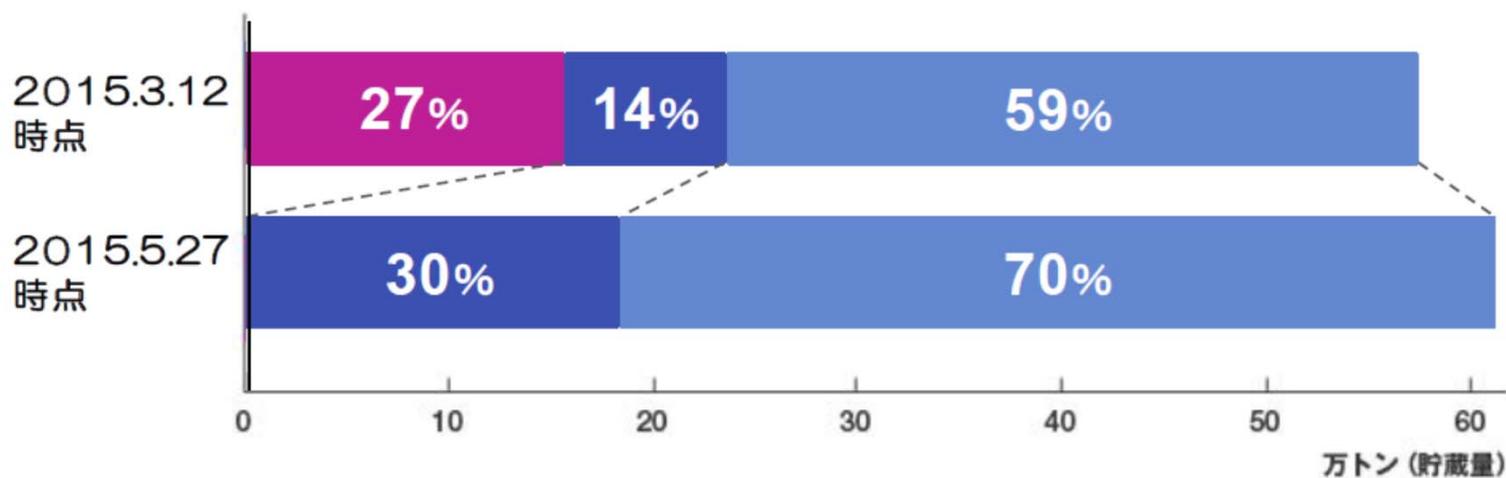


海側遮水壁閉合箇所 : 鋼管矢板9本分(延長約10m)

2. 汚染水対策(汚染水処理の進展)

- タンクに起因する敷地境界実効線量(評価値)が、2015年3月末に「1mSv/年未満」へ到達(RO濃縮塩水の8割を処理)
- その後もタンク内汚染水処理を進め、タンク底部の残水を除き、すべてのRO濃縮塩水の処理を完了(2015年5月27日)。汚染水によるリスク低減という目的を達成。
- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水等については、多核種除去設備で再度処理をし、更なるリスク低減を図る。

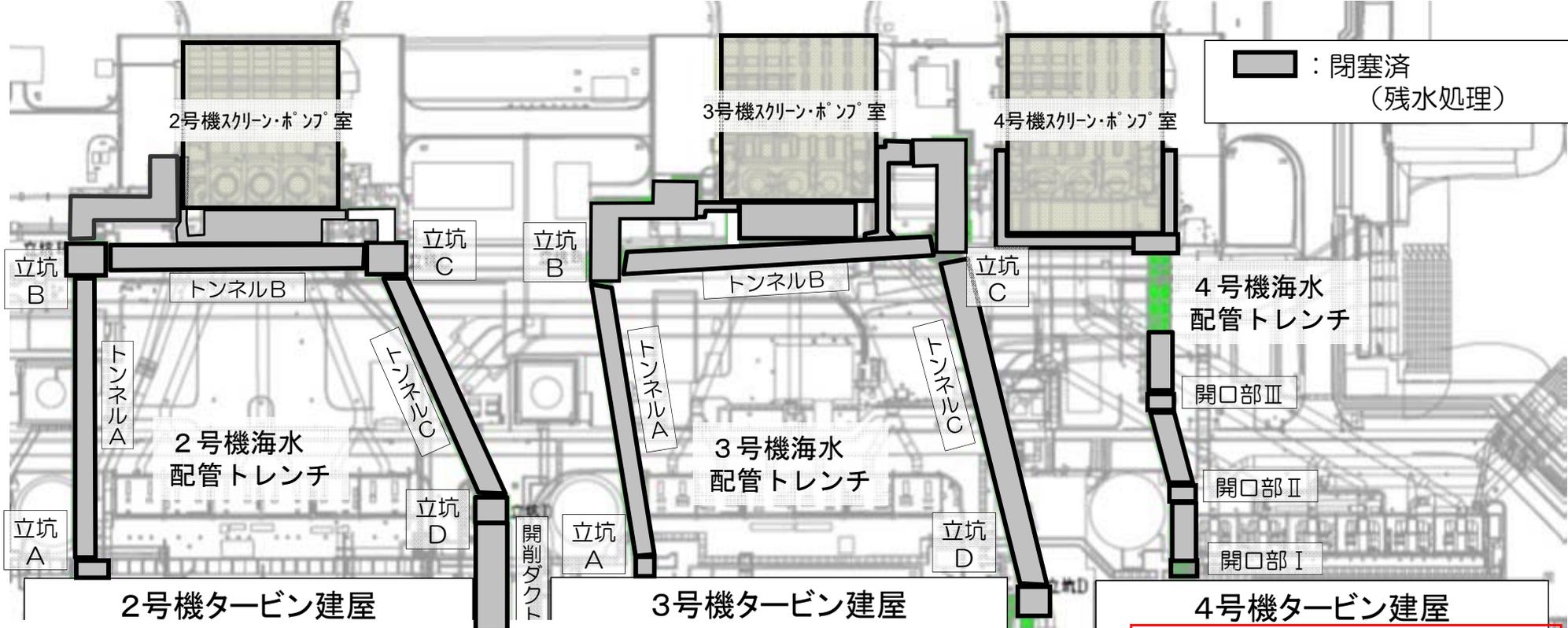
RO濃縮塩水および処理水の推移



 <p>RO濃縮塩水</p> <p>ストロンチウムを含む高濃度の汚染水。現在は、セシウム吸着装置の改良により新たに発生することはない。</p>	 <p>ストロンチウム処理水</p> <p>RO濃縮塩水の一刻も早いリスク低減のため、吸着装置を改良して、主な放射性物質であるセシウムとストロンチウムを取り除いた処理水。今後、多核種除去設備(ALPS)によって再度浄化する。</p>	 <p>多核種除去設備による処理水</p> <p>多核種除去設備(ALPS)によって、トリチウム以外の大半の放射性物質を取り除いた処理水。過去の設備トラブル時に浄化性能が低下した際の処理水については、再度浄化を進める。</p>
---	--	---

2. 汚染水対策(海水配管トレンチ汚染水対策工事の進捗状況)

■位置図
N



■進捗状況(2015年8月27日完了時点)

汚染水除去全体進捗：99%

号機	2号機	3号機	4号機
状況	<ul style="list-style-type: none"> トンネル部充填: 12/18完了 トレンチ内滞留水移送: 6/30完了 ※1 立坑充填: 7/10完了 	<ul style="list-style-type: none"> トンネル部充填: 4/8完了 トレンチ内滞留水移送: 7/30完了 ※1 立坑充填: 8/27完了 	<ul style="list-style-type: none"> トンネル部(開口部 I ~ III間)充填: 3/21完了 開口部 II・III充填: 4/28完了
残滞留水量	0m ³	0m ³ ※2	約60m ³ ※3
充填量	約4,620m ³	約5,980m ³	約630m ³

※1: 引き続き、残水処理を行う。 ※2: 立坑D上部を除く。立坑Dは、O.P.+0.2m付近で建屋と繋がっており、今後、建屋滞留水の水位低下に合わせて充填する方針。
 ※3: 開口部 I および建屋張出部を除く。

設備データベースと個々の設備の保全計画

■ 仮設の設備を含め、当社が管理する設備について保全計画を作成

➤ 管理対象設備（保全計画を作成して管理する設備）

- 運用を開始している実施計画に記載の設備（運用開始直後の設備は運用状況を踏まえて速やかに作成）
- 汚染水・ダストを取り扱う仮設設備（ホース、タンク、ポンプ・ファン、ダストモニタ、電源）

設備の恒久化対策

■ 現場には事故に際して応急的に設置した設備が残っているため、設備の恒久化対策による信頼性の向上を実施

- 電源設備のリプレース
- 水処理設備移設ラインのポリエチレン化

図面類の整備

■ 当社が設備を運営するために必要な図面の整備を実施

- 単線結線図：高圧（M/C・P/C）、低圧（MCC他）
- P & I D：炉注設備・SFP冷却設備・N2封入設備等冷却設備、KURION・SARRY・ALPS・凍土壁等水処理設備、焼却設備、その他設備
- 配置図：建物配置図、電源・配管等ルート図、機器配置図、埋設管理図

配管の恒久化



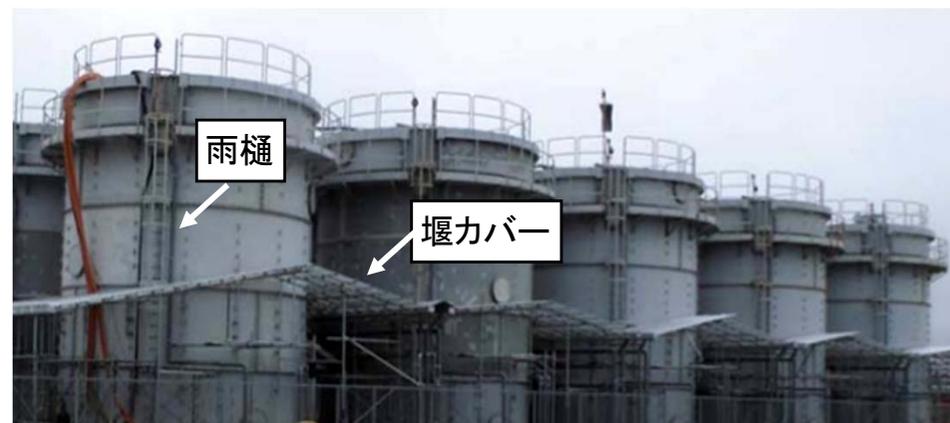
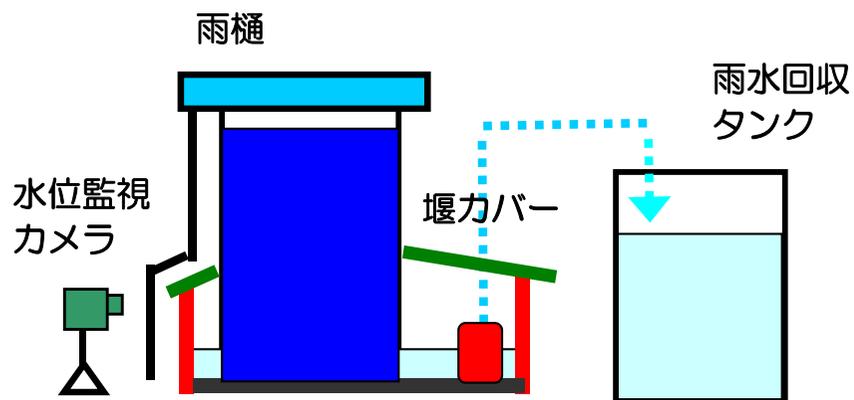
2012年4月撮影



2014年9月撮影

タンク周辺の雨水対策

昨年の台風対応を踏まえ、①堰の嵩上げ、②雨水抑制(雨樋、堰カバー)、③雨水回収タンクの大型化、④移送ポンプの大型化、⑤堰内水位監視カメラ設置等、様々な設備対策を実施



- タンク総容量は2016年3月までに90万m³を確保する予定
- フランジタンクなどのタンクをより信頼性の高い溶接型タンクにリプレース



フランジタンク



横置きブルータンク



溶接タンク



3.設備の信頼性向上(循環ループ縮小化工事)

- 汚染水の移送、水処理、炉注を行う循環ループの内、塩分除去(RO)装置を4号タービン建屋に設置し、循環ループの縮小による屋外移送配管の漏えいリスク低減等を行うもの(2015年度実施予定)。
- これにより、循環ループ(屋外移送配管)は約3kmから約0.8kmに縮小される(滞留水移送ラインを含めると約2.1km)。

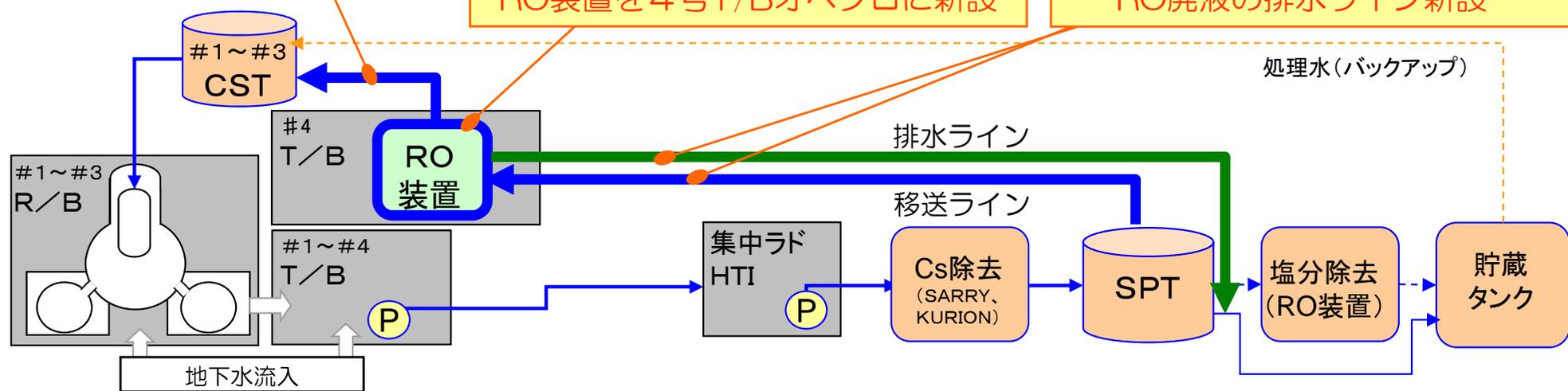
【循環ループ縮小 全体イメージ】

(太線部が今回設置する「建屋内RO循環設備」)

RO装置からCSTへ移送ライン新設

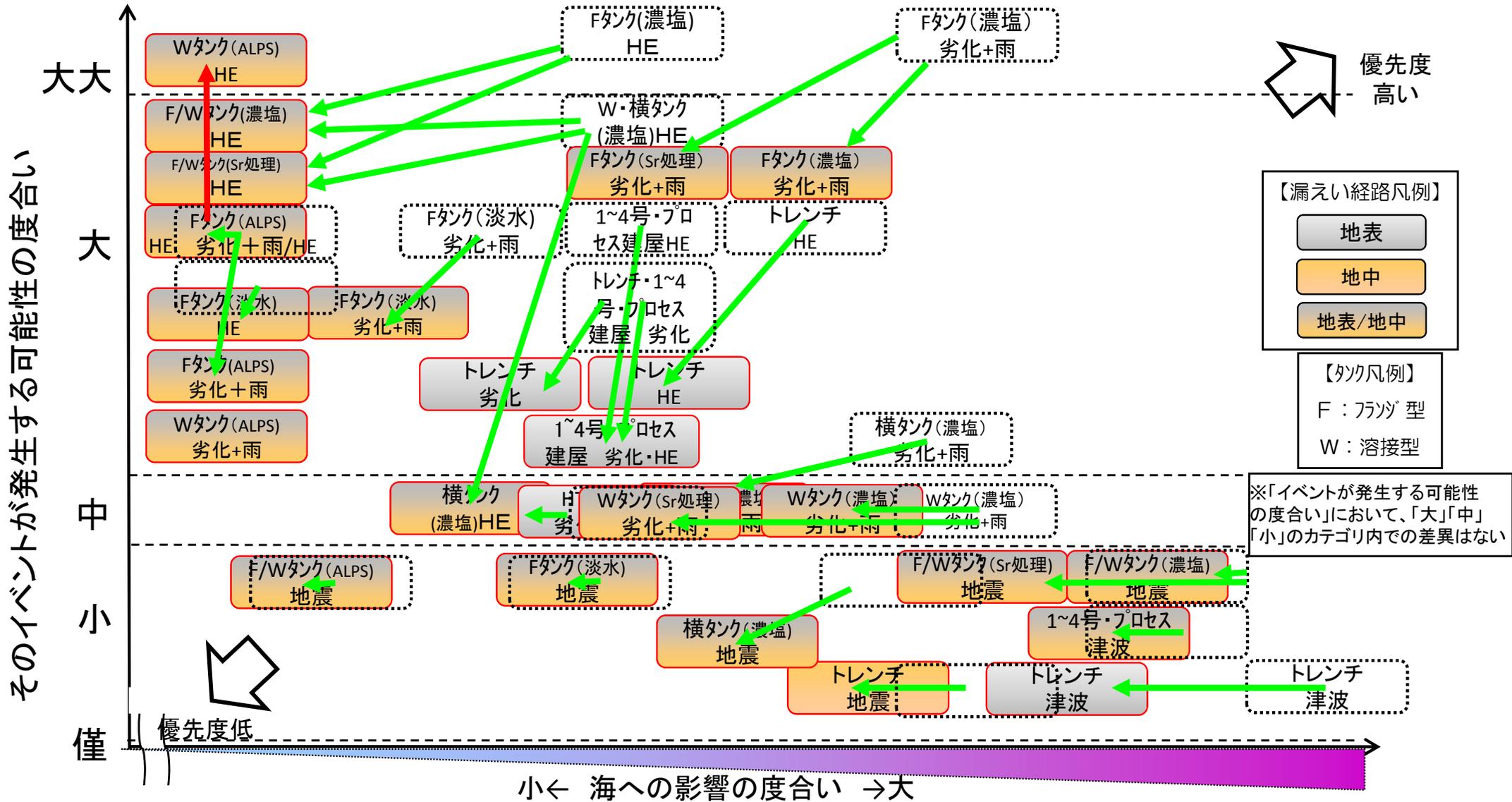
RO装置を4号T/Bオペフロに新設

SPTからRO装置への移送ライン、RO廃液の排水ライン新設



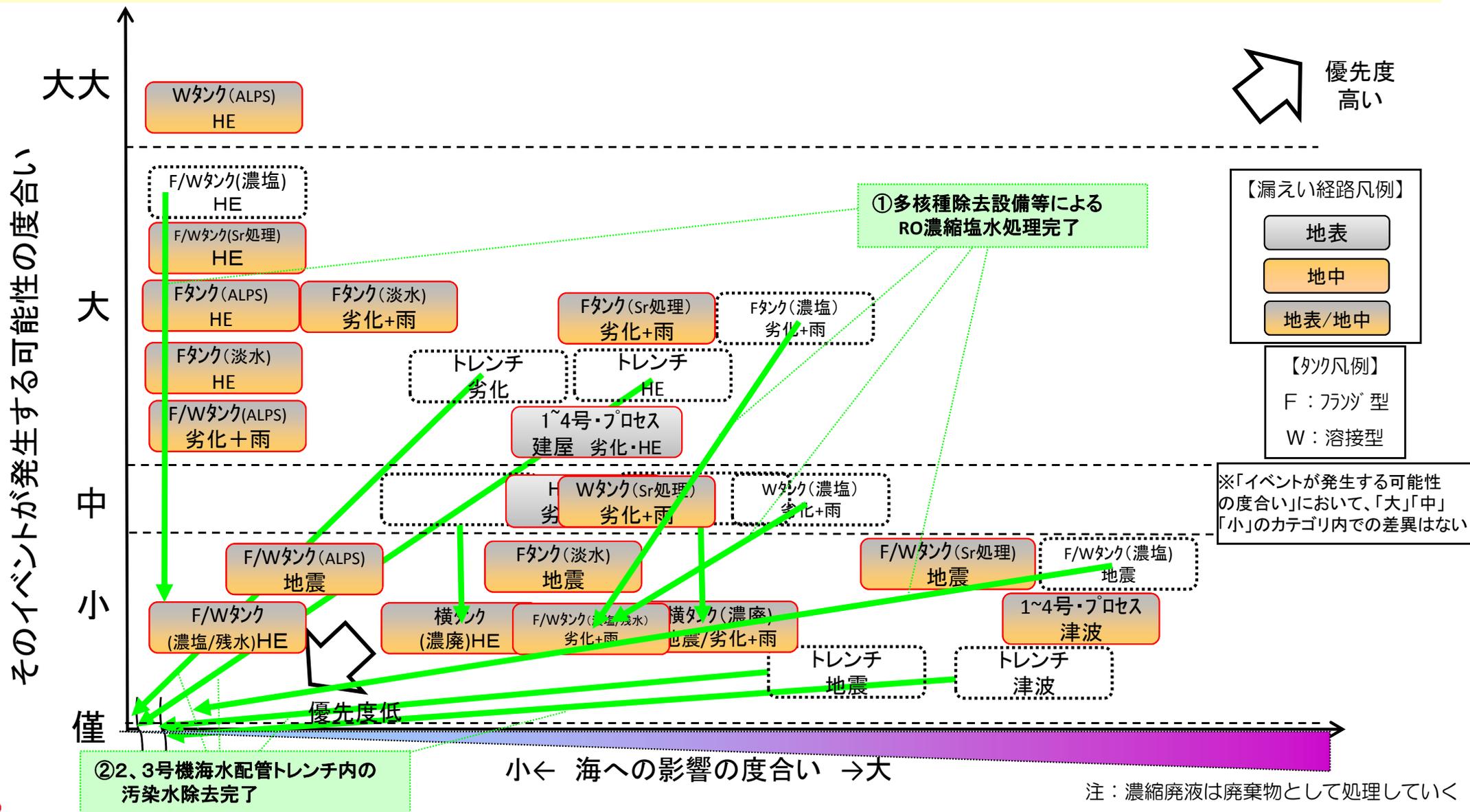
3. 設備の信頼性向上(汚染水リスクマップ[2013.12→2015.3の変遷])

- タンクの堰のかさ上げ、パトロール強化などタンク周辺の対策の実施、並びに多核種除去設備による浄化が進展。(一方で多核種処理設備処理水は処理水量が増加したため漏えいリスクは高まる)
- トレンチ内汚染水の浄化が進展。

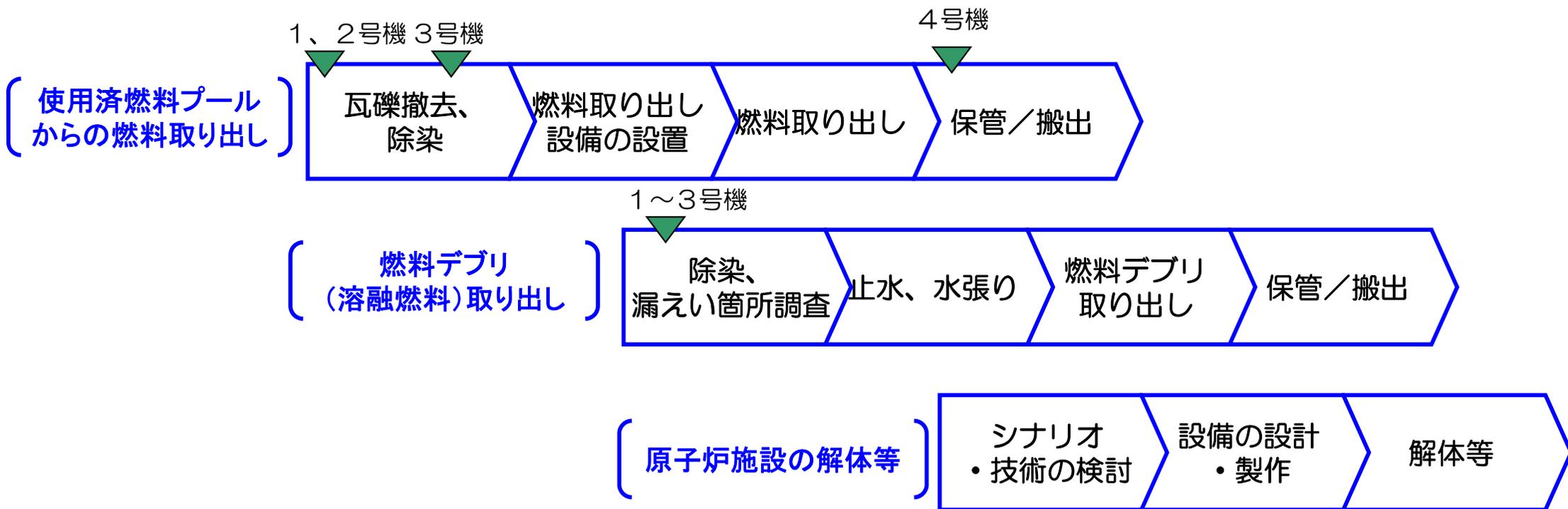


3. 設備の信頼性向上(汚染水リスクマップ[2015.3→2015.7の変遷])

- 多核種除去設備(ALPS)等により、タンク底部の残水を除き、5月にRO濃縮塩水の処理が完了。Sr処理水の処理を実施中。
- 2号機海水配管トレンチ内の汚染水除去が6月に、3号機海水配管トレンチは7月末に汚染水除去完了。



- 4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しを2014年12月22日に完了。大きなトラブルもなく作業を終了し、廃炉作業の大きなステップとなった。今後、原子炉施設の解体等に向けて検討を実施
- 1～3号機では燃料取り出し、燃料デブリ取り出しの開始に向け室内の除染、地下水流入箇所の特特定など調査中



- 4号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しを2013年11月18日より開始。1535体の燃料取り出しを予定通り2014年12月22日に完了。
- 4号機にかかるリスクはなくなり、今後の1, 2, 3号機からの燃料取り出しに向けて大きな自信となる。(プール内部の制御棒や炉からの放射線量を低減するためプールの水量や水質は維持)



2011年9月22日



2012年7月5日



2013年11月12日: 燃料取出用架台を設置(使用した鉄骨4200トンは東京タワーと同程度)。



4号機使用済燃料プールからの燃料取り出し工程

大型瓦礫撤去前



平成23年3月撮影

除染中(現在)



平成26年12月撮影

FHM取り出し(8月2日)



【オペフロの状態(現在)】

- ・オペフロ上の大型瓦礫の撤去は完了し、除染・遮蔽工事を実施中
→除染作業時も瓦礫撤去時と同等の飛散抑制策を実施
- ・使用済燃料プール内の大型瓦礫撤去を実施中(8月2日、燃料交換機撤去を完了)
→水中瓦礫のため飛散防止剤散布対象外

【今後の主な作業予定】

①オペフロ瓦礫撤去 → ②除染、プール内瓦礫撤去 → ③遮蔽設置 → ④燃料カバー設置

4. 燃料取り出しに向けた状況(3号機のカバー設置準備状況)

- 1F構内にてカバー設置作業を円滑に進めることができるように、小名浜港で組立作業の確認を行った。
- 燃料取り出し用カバーの架構部材(鉄骨トラス・ガーダー等)は、工場製作が完了しており、1F構内での省人化を図るため構外で大組した架構を小名浜港で保管している。



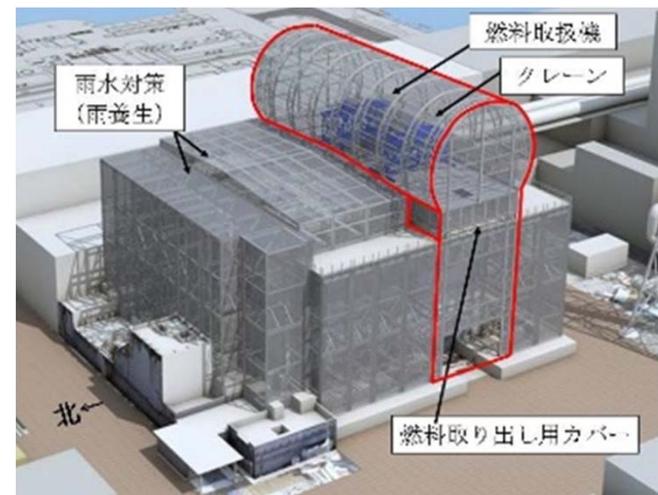
カバー架構部材の保管状況
(2015.3.10撮影)



屋根部材の組立状況
(2014.10.11撮影)



ガーダーの組立状況
(2014.6.23撮影)



燃料取出カバーの設置(イメージ)

原子炉建屋オペフロ状況



オペフロ全景(北西面)
平成23年6月撮影



オペフロ全景(南東面)
平成23年6月撮影



南面

西面

カバー解体中(現状)



全景 2015年8月 24日 9時 00分頃

平成27年8月撮影

【オペフロの状態(現在)】

- ・屋根カバー閉止中 (2014年12月4日閉止完了。2015年5月カバー解体開始)

【今後の主な作業予定】

- ①カバー解体 → ②瓦礫撤去 → ③除染作業 → ④遮蔽設置 → ⑤燃料カバー設置

4. 燃料取り出しに向けた状況(1号機崩落した屋根の内側)



写真①

燃料取扱機



写真③

ガレキ

原子炉ウェルカバー



写真②

燃料取扱機(下部)

使用済燃料プール水面

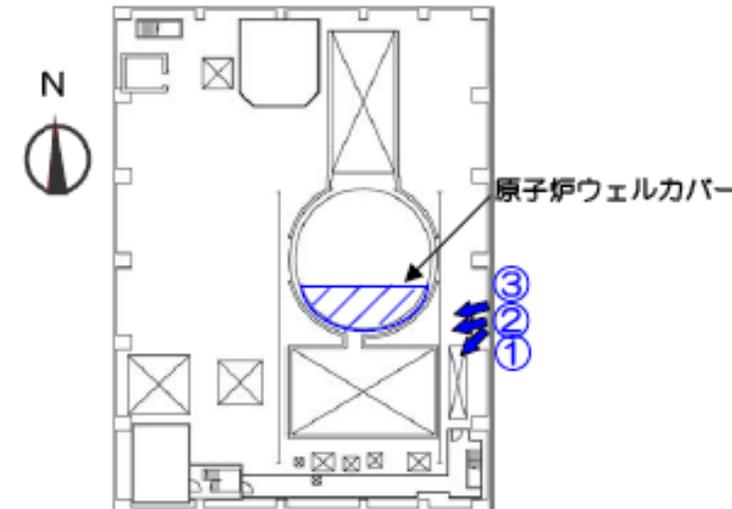


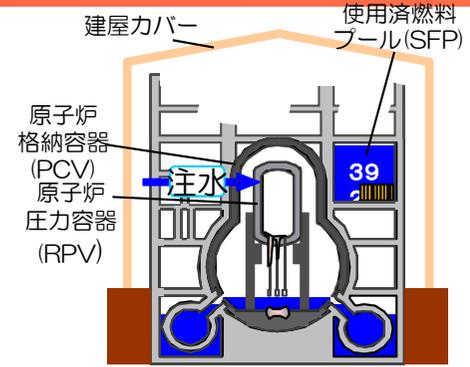
図1：撮影箇所

工法	完全冠水	冠水	気中	完全気中
原子炉内の水位	原子炉格納容器 頂部	炉心燃料領域より上 (燃料デブリは冠水)	炉心燃料領域より下 (燃料デブリの一部が気中)	水なし (燃料デブリの全てが気中)
冷却	← 水冷による冷却が可能		→ 気中でのデブリの温度が安定することが必要	
遮へい (取り出し開口部)	← 小 ← ← ← 鉄等による遮へいの必要性		→ → → 大	
飛散防止 (デブリ切削時)	← 冠水による飛散防止が可能		→ 散水による飛散防止が可能	→ 気中での飛散防止対策が必要
デブリへのアクセス	← 上部から		← 側面部から	← 底部から

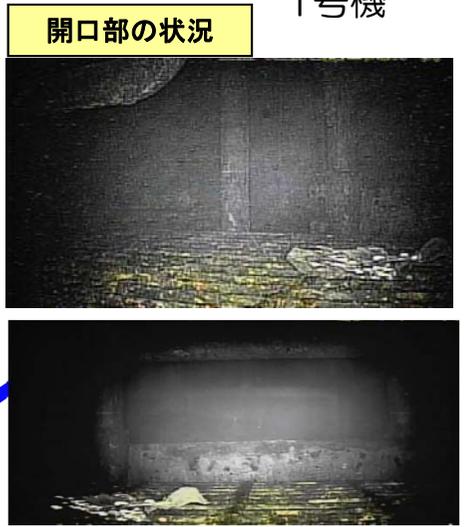
注)これらの工法は例示であり、これら以外の工法が否定されるものではない。また、複数の工法の組合せは考慮されるものであり、各工法は排他的ではない。図中のデブリ及び水位最下部の位置はイメージの例示であり、具体的な位置の予断を与えるものではない。水循環系の表示は省略している。

5. 燃料デブリ取り出しに向けた研究開発(ロボットによる調査)

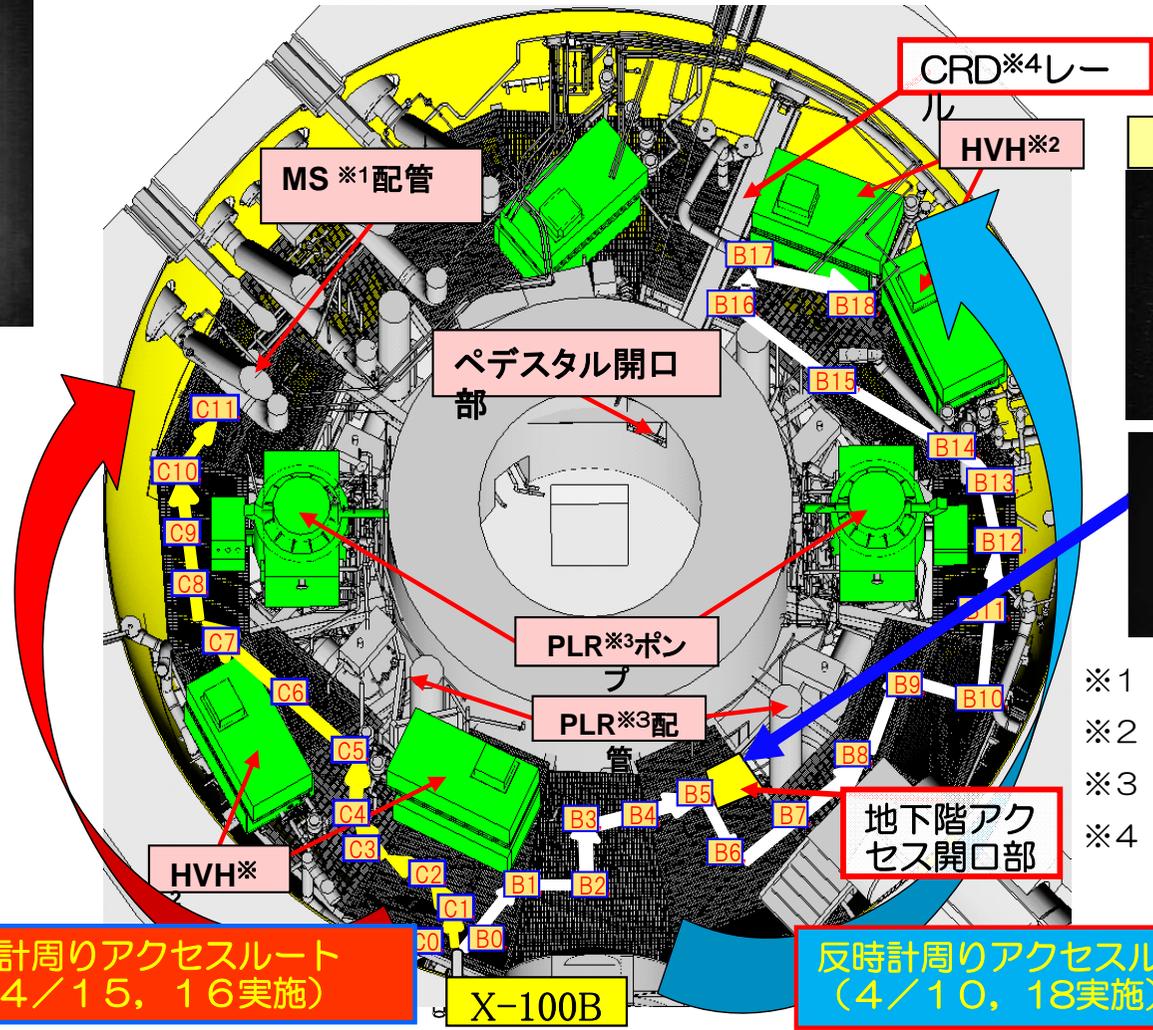
- 2015年4月、1号機格納容器内部の状況を調査するため、1階グレーチングにX-100Bペネトレーションを通じてロボットを投入
- 内部の線量や温度とともに多くのビデオ撮影を実施



1号機

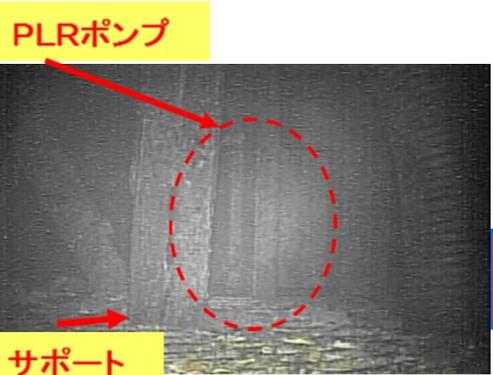


- ※1 主蒸気系
- ※2 空調ユニット
- ※3 原子炉再循環系
- ※4 制御棒駆動機構

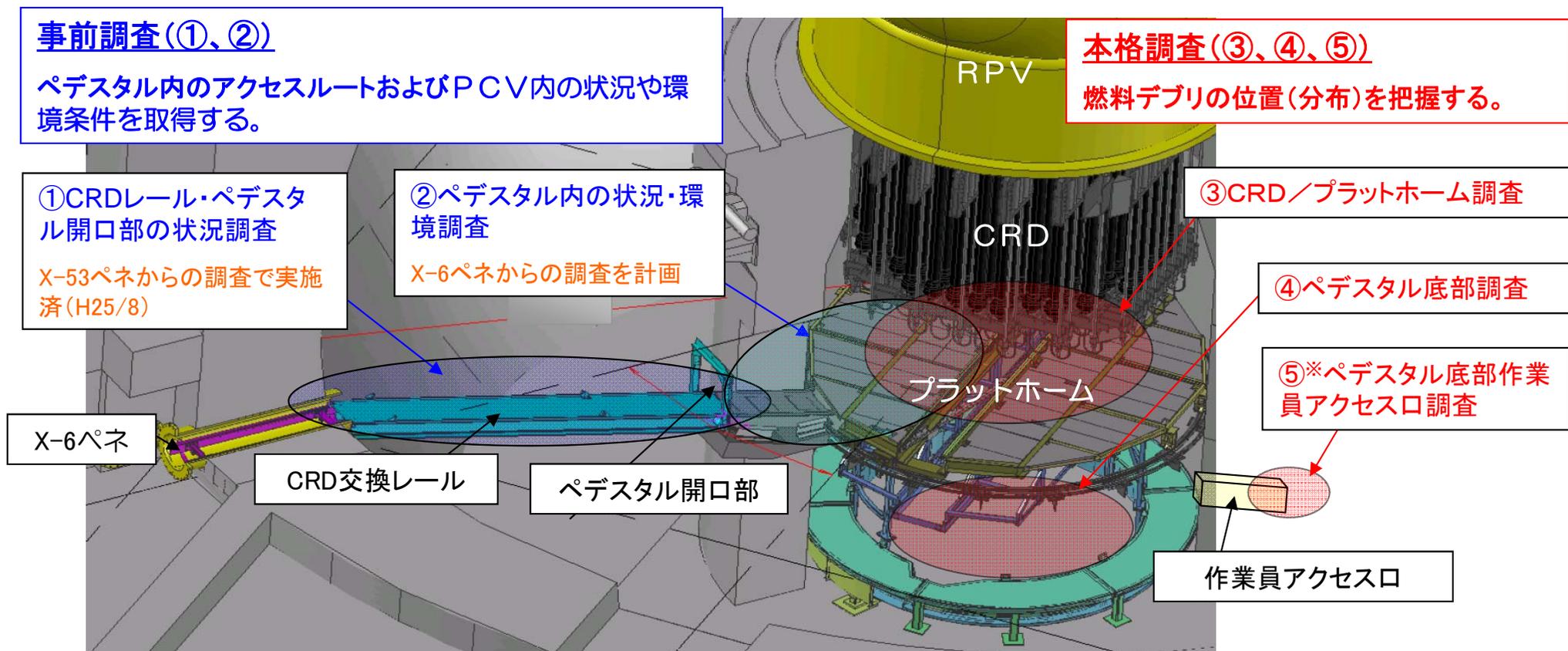


時計周りアクセスルート (4/15, 16実施)

反時計周りアクセスルート (4/10, 18実施)



- X-6ペネ→CRD交換レール→ペDESTAL開口部を經由しペDESTAL内に調査装置を投入することでペDESTAL内の燃料デブリの位置(分布)の把握を目的とした調査を計画しており、①→②→③,④,⑤の順で段階的に調査を進める予定。
- 事前調査としてCRD交換レール～ペDESTAL開口部の状況調査(事前調査①)を実施。



※⑤はペDESTAL外からのアクセスについても検討中

- 廃炉に関する技術基盤を確立するため、政府予算で、①遠隔操作機器・装置の開発実証施設(モックアップ施設)、②放射性物質分析・研究施設を整備。国内外の幅広い分野の研究者が共同研究を実施する場とする。

①モックアップ施設

- 格納容器下部の実寸大模型を設置し、漏えい箇所を調査・補修するロボットの実証試験や運転員の訓練等を実施するもの。
- 2013年5月、檜葉町(檜葉南工業団地)に立地することを決定し、2014年9月26日に起工式を実施。2015年度末の竣工を予定



建設中の施設(日本原子力研究開発機構提供)

②放射性物質の分析・研究施設

- 福島第一原発からの燃料デブリや放射性廃棄物等を遮へい機能の高い部屋に搬入し、被ばくを避けるため、グローブボックスやマニピュレータ等を用いて分析・研究する。
- 2013年11月、立地候補地の技術的要件等を決定。立地地点を選定した上で、2017年度中の運用開始を目指している。



グローブボックス



マニピュレータ

6. 中長期ロードマップの改訂（改訂の概要）

■ 廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議決定（2015年6月12日）

1. リスク低減の重視

- ・スピードだけではなく、長期的にリスクが確実に下がるよう、優先順位を付けて対応

2. 目標工程（マイルストーン）の明確化

- ・地元の声に応え、数年間の目標を具体化

3. 徹底した情報公開を通じた地元との信頼関係の強化等

- ・コミュニケーションの更なる充実（国際フォーラムの開催等）

4. 作業員の被ばく線量の更なる低減・労働安全衛生管理体制の強化

5. 原子炉損害賠償・廃炉等支援機構（廃炉技術戦略の司令塔）の強化

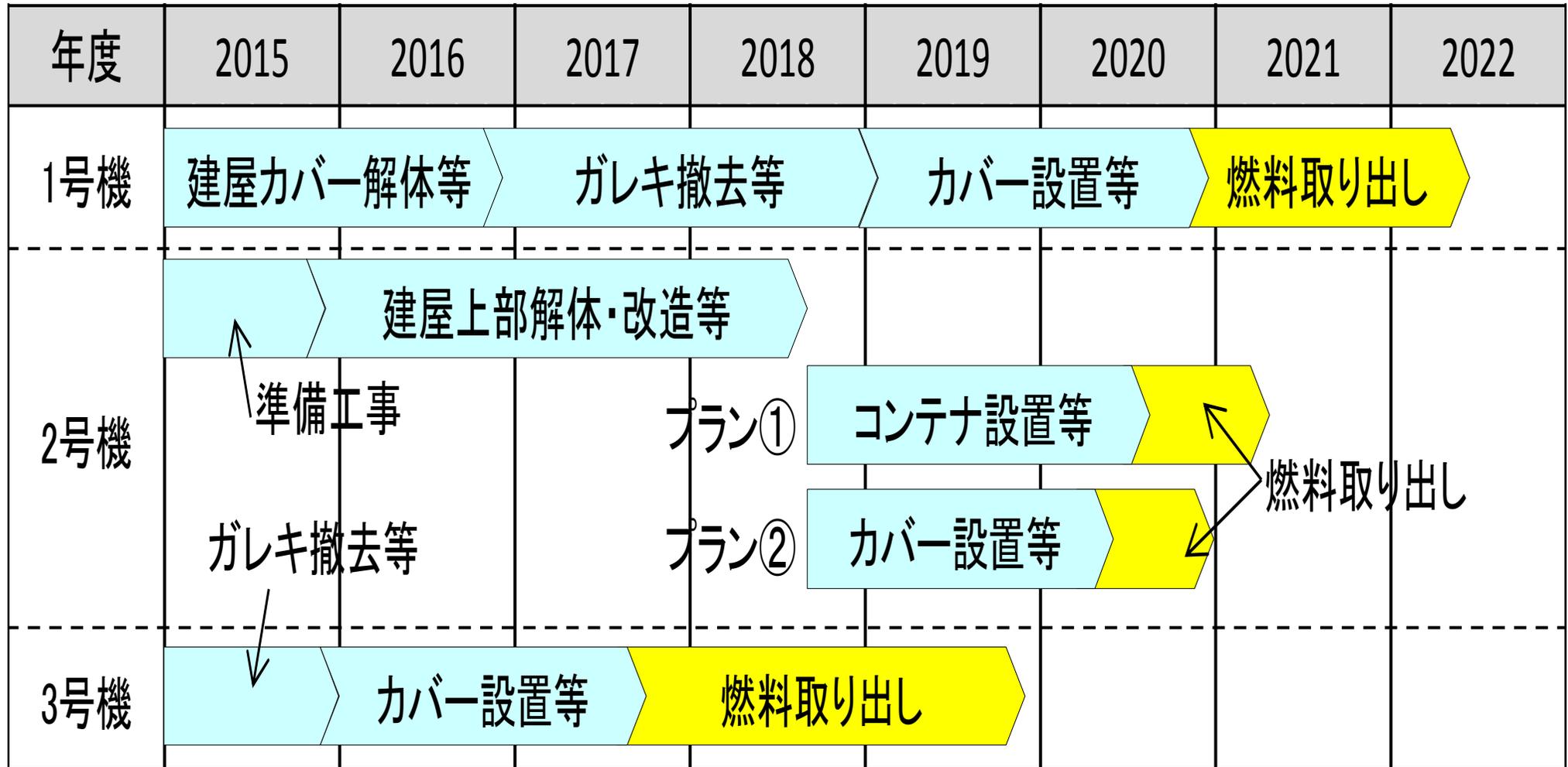
- ・研究開発の一元的管理・国内外の叡智結集

6. 中長期ロードマップの改訂（マイルストーンの設定）

中長期ロードマップにおける主要な目標工程

分野	内容	時期
1. 汚染水対策		
「取り除く」	多核種除去設備等による再度の処理を進め、敷地境界の追加的な実効線量を1mSv/年まで低減完了	2015年度
	多核種除去設備等で処理した水の長期的取扱いの決定に向けた準備の開始	2016年度上半期
「近づけない」	建屋流入量を100m ³ /日未満に抑制	2016年度
「漏らさない」	高濃度汚染水を処理した水の貯水は全て溶接型タンクで実施	2016年度早期
滞留水処理完了	① いずれかのタービン建屋の循環注水ラインから切り離し	2015年度
	② 建屋内滞留水中の放射性物質の量を半減	2018年度
	③ 建屋内滞留水の処理完了	2020年内
2. 使用済燃料プールからの燃料取り出し		
①	1号機燃料取り出しの開始	2020年度
②	2号機燃料取り出しの開始	2020年度
③	3号機燃料取り出しの開始	2017年度
3. 燃料デブリ取り出し		
①	号機ごとの燃料デブリ取り出し方針の決定	2年後目処
②	初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定	2018年度上半期
②	初号機の燃料デブリ取り出しの開始	2021年内
4. 廃棄物対策		
	処理・処分にに関する基本的な考え方の取りまとめ	2017年度

6. 中長期ロードマップの改訂 (各号機のスケジュール)

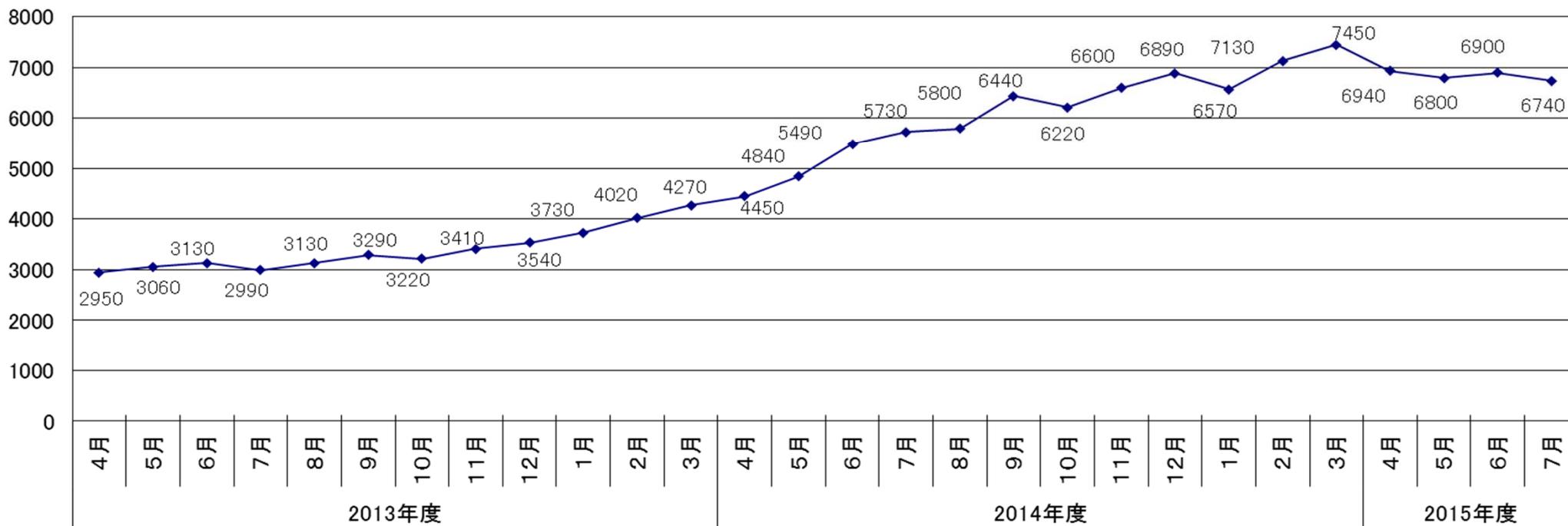


7. 労働環境改善(作業員の推移)

■ 作業員の被ばく線量管理を確実に実施するとともに、長期にわたる要員の確保に取り組む。また現場のニーズを把握しながら継続的な労働環境の改善にも取り組んでいく。

作業員数の推移

地元雇用率(2015年7月):約50%



長期にわたる安定的な雇用確保

- ✓ 40年にわたる廃炉作業を確実に進めるため、地元企業をはじめとする協力企業の方々に長期的に働いていただける環境を整えることが重要
- ✓ 物理的な環境整備に加え、安定的な雇用が確保できるよう、現在、福島第一の発注の9割で随意契約を適用
- ✓ 長期的な要員確保により、より計画的な要員配置や人材育成も可能となる

7. 労働環境改善(除染の推進と軽装備化)

- 事故直後は全域で全面マスクを着用
- 現在は建屋内や濃縮汚染水作業時等を除き、全面マスクは着用不要に



全面マスク



半面マスク



防塵マスク



サージカルマスク

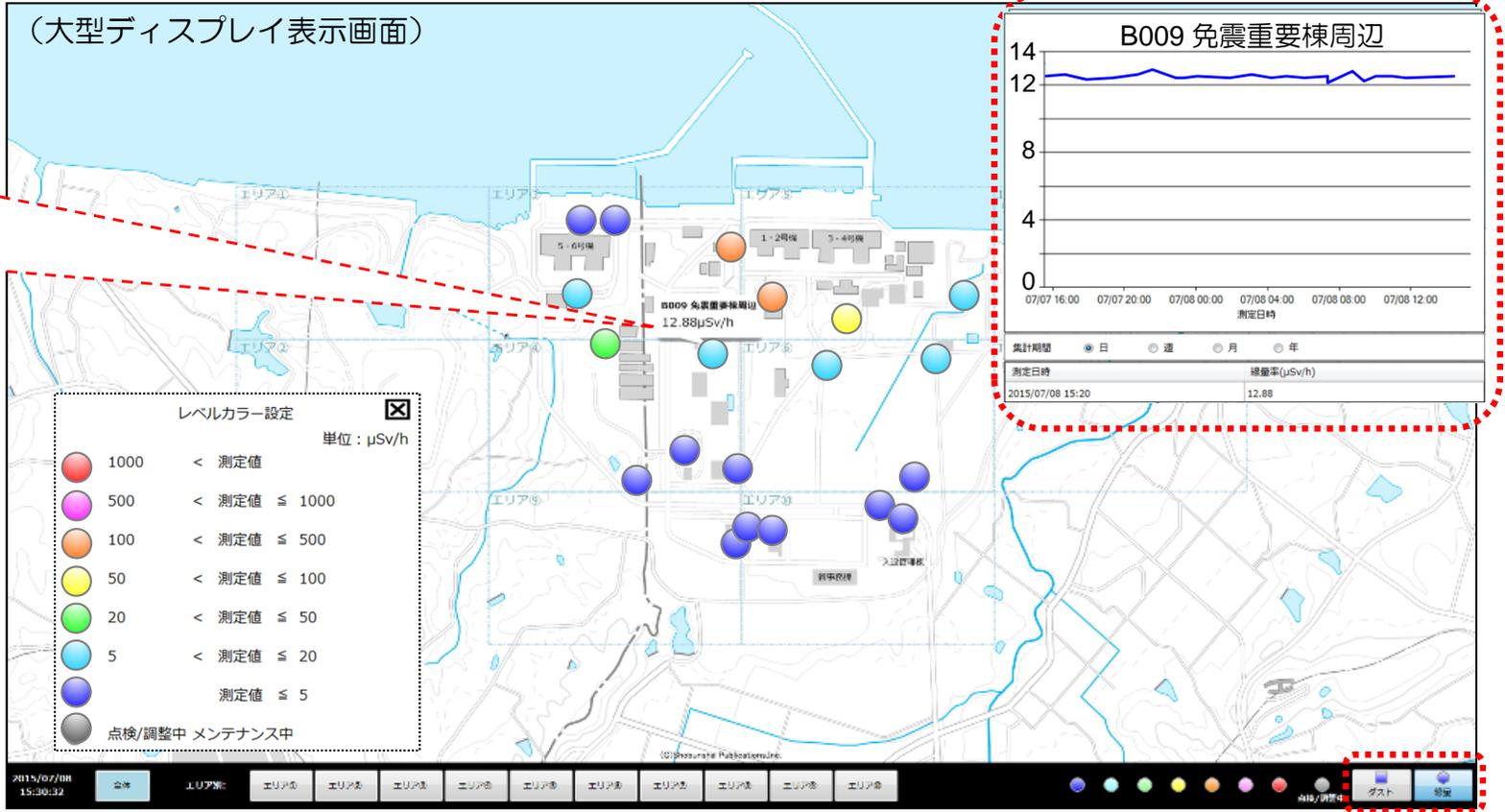
※上記の黄色エリアでは、全面マスクもしくは半面マスクを着用

7. 労働環境改善(放射線環境[線量率・ダスト濃度]の見える化)

■ 構内各所に線量率モニタを設置(現在20箇所。将来的に70箇所に拡大予定)し、現場の線量率を連続表示させるとともに、免震棟など作業員の往来が多い箇所に設置した大型ディスプレイにもリアルタイム表示させ、作業員が線量率を確認しやすい環境を整備。また、同システムに連続ダストモニタの測定結果も、順次、表示させる予定(現在2箇所、将来的に10箇所)。

マーカーにタッチするとトレンド表示(日/週/月/年単位で表示切替可能)

マーカーにタッチすると最新値がポップアップ表示



ダスト濃度 [左] と線量率 [右] の表示切替

7. 労働環境改善(作業現場の環境改善)

海側のガレキ撤去

作業前



2号機タービン建屋前

作業後



Rw集中処理建屋



4号機タービン建屋前



タンクエリアでの浸透防止工

作業前



作業後



護岸エリアのフェーシング(舗装)

作業前



作業後



3-4号機間 海側

- 大熊町大川原地区に建設していた3,000食を提供できる給食センターが2015年3月31日に完成
- 2015年5月31日から約1,200人収容できる大型休憩所が運用を開始し、翌6月1日から食堂での食事の提供を開始。売店の設置も検討中。
- 東京電力社員が勤務する新事務棟が2014年10月に完成し、2015年6月から食事の提供も開始



大型休憩所



給食センター

8. 情報提供・コミュニケーション改善(全データの公開)

- 本年3月のK排水路問題を踏まえ、廃炉カンパニーの意識改革・社会的感性醸成を図るとともに、社内組織(廃炉カンパニー、SC室)のコミュニケーションを質・量ともに大幅に拡充。
- 放射線データの全数公開の方針を発表し、4月30日よりWEB上での公開を開始。

【2015年4月30日ロードマップ会見にて発表した、放射線データ全数公開に向けた取り組み方針】

- 公開開始日から公開対象を順次拡大。夏以降、全放射線データまで拡大予定。
- 膨大なデータとなるため、4月の拡大分について、当面は測定記録の形で公開。
- 分析計画については、重要なものは適宜公開。全計画の公開は体制整備やシステム化が整う夏以降に実施。
- 適宜、第三者の監視・評価等を反映し、透明性・信頼性を向上。

【公開範囲の拡大】

	公開範囲	公開件数(年間)	公開方法
①現状(取り組み前)	水・ダスト・土壌 (定例分析結果のみ)	約30,000件	WEB掲載(一覧表)
②4/30以降	水・ダスト・土壌・スミア ※1 (定例+臨時分析結果)	約50,000件	WEB掲載(一覧表+測定記録)
③今夏以降 ※2	水・ダスト・土壌・スミア・線量率 (分析計画、定例+臨時分析結果、測定結果)	約70,000件	WEB掲載(一覧表+測定記録) トピック説明(毎月) ※3

※1 床・壁等をろ紙で拭き取り、表面汚染密度を測定する方法。 ※3 可能な限り一覧表に移行。
 ※2 体制整備、システム化を図った上で②から③に移行。

- これまで、約13,000件(臨時分析約5,000件、定例分析約8,000件)を公開(4/30~8/17)
- 8月20日より、新たに線量率等のデータの公開を開始。これにより放射線データ※の全数公開となる。

※当社が測定したデータおよび協力企業が測定し当社に提出したデータを対象

8. 情報提供・コミュニケーション改善(データ公開イメージ)

「日々の放射線データ」をクリックすると分析の大項目(13種類)が表示される。
※ 本ページの下部に線量率データ(PDF)を公開するカレンダーあり。



リリース お知らせ一覧 サイトマップ 文字サイズ 小 中 大 印刷 Language

サイト内を検索する

廃炉プロジェクト

- 基本姿勢
- 福島第一原子力発電所について
- 地震発生と事故
- 実施作業と計画
- 廃炉推進カンパニーについて
- 報道・データ
- FAQ 私が、お応えします

廃炉プロジェクト > 実施作業と計画 > 福島第一原子力発電所における日々の放射性物質の分析結果

- ▶ 実施作業と計画
- ▶ 中長期ロードマップ
- ▶ 汚染水対策の主な取り組み
- ▶ 燃料取り出し
- ▶ 燃料デブリ取り出し
- ▶ 周辺の放射性物質の分析結果
- ▶ 日々の放射性物質の分析結果
- ▶ 原子炉の安定化

福島第一原子力発電所における日々の放射性物質の分析結果

地域・社会の皆さまに放射能濃度の状況をご確認いただけるよう、発電所において、以下の試料採取・放射能濃度の測定を行い、その結果をお知らせしております。データのご利用にあたっては[こちら](#)をご覧ください。

- ▶ [用語解説](#)
- ▶ [English Form](#)

放射能の分析計画および結果

4月30日から掲載のPDFデータは[こちら](#)

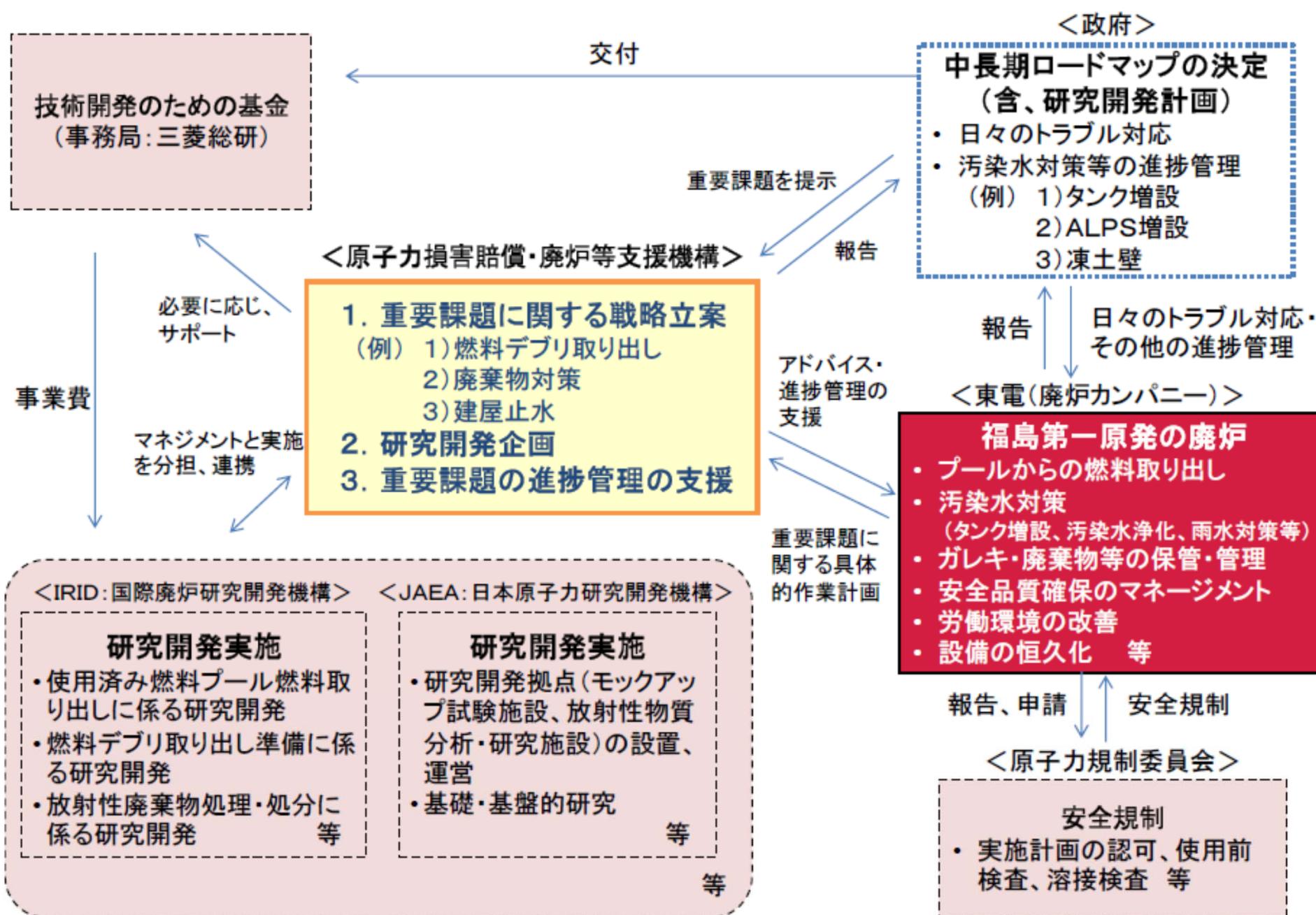
▶ I. 汚染水処理設備

【準備中】汚染水処理設備で採取した試料。設備入口・出口、受入タンク、下流構内タンク入口弁までの配管内から採取した試料も含む。主に液体試料。

▶ II. 構内タンク

【準備中】汚染水貯蔵タンクで採取した試料。主に液体試料。

8. 廃止推進に向けた組織整備



出典:原子力損害賠償・廃炉等支援機構ホームページ資料より抜粋

ご静聴いただきありがとうございました。